

## 第4回我孫子市地域コミュニティ活性化基本方針策定委員会 会議概要

1. 日 時 : 平成24年9月29日(土) 9時30分から12時00分
2. 場 所 : 議会棟第一委員会室
3. 出席委員 : 坂口委員長/荒井委員/石井委員/金川委員/上村委員  
倉橋委員/近藤委員/佐々木委員/新保委員/鈴木委員  
多田委員/服部委員/早川委員/山家委員/吉村委員/渡邊委員
4. 事務局出席者 : 枝村市民生活部長/四家市民活動支援課長/渡辺主幹  
小池主査長/浅海主任/岩上主事/渡邊主事
5. 欠席者 : 牛尾副委員長/小林委員/田島委員/吉田委員
6. 会議内容
  1. まちづくり協議会との懇談会について
  2. 近隣センターの利用状況について
  3. 市内のコミュニティに関する取組み別調査について
  4. コミュニティを構成する組織について
  5. 地域コミュニティ活性化に関する意見交換
  6. 次回の日程と進め方について
  7. 傍聴人及び発言者の数: 傍聴人2人 発言者の数1人
7. 決定事項
  - ・策定委員の中で、市内調査の結果について意見や要望のある方は、10月12日(金)までに市民活動支援課に連絡をする。

◆議事の内容

●まちづくりの懇談会について	
委員	教育委員会の社会教育委員の会議で、近隣センターや公民館等の稼働状況や社会教育への有用性について話し合いがありました。しかし、近隣センターの活動状況の資料が市から出てきていなかったもので、話し合いになりませんでした。事務局間での調整をきちんとやっていただけるとありがたいです。
事務局	事務局で調整させていただきます。
●近隣センターの利用状況について	
委員長	近隣センターの利用状況について、現状を把握するためにこのような資料を作っていただきました。いかがでしょうか。
委員	我孫子南近隣センターはほとんど会議室が空いていないのですが、67%の利用率なのですね。全体の中に調理室なども含まれているためにこのような結果になったと思います。感覚的に分かりましたので、このデータで結構です。どうもありがとうございました。
事務局	補足しますと、我孫子南近隣センターは稼働率が67%と高いのですが、市の事業でも我孫子南近隣センターのホールを使っていますし、駅前なので利用率が高いのだと思います。
委員	稼働率の出し方をもっと細かく説明したほうがいいのではないのでしょうか。有効回数三区分の説明をしておいた方がいいと思います。
事務局	稼働率について、有効回数は、午前、午後、夜間の三区別になっています。それに部屋数をかけて、実際に使用した回数をそれで割っているという計算の仕方をしています。
委員	私のところでも、近隣センターで抽選漏れということがよくあります。実際のところ、調理室以外などは90%以上なのではないかと思いますし、土日の比率も高いのではないかと思います。
事務局	ホールや会議室は稼働率が高いと思います。また夜間は利用が少ないのですが、日中の時間は比較的多いです。また活動されている方は、活動時間が重なるので、抽選

	をしないと利用できない状況になっているのかなと思います。
委員長	このデータは、このままでいいですか。中心となる部屋の稼働率などは出せるのですか。
事務局	傾向は出すことができると思いますが、市民活動支援課の方で持っているデータを見てから検討いたします。
委員	近隣センターは夜間の利用客がいないと午後5時に閉めますが、社会教育団体は夜の方が活動は多いのに、閉められてしまって探せない状況です。これについては、事務局の横の連携が取れていないのではないかという意見もありました。夜間の利用率や夜は閉めるか閉めないかという点も含めて、情報を出していただきたいです。
事務局	夜間の稼働率のデータは次回お出しします。社会教育委員との関係ですが、近隣センターの稼働率であるとか、まちづくり協議会の活動がどのようなものかなどのデータを、事務局で調整します。
●庁内のコミュニティに関する取組み別調査について	
事務局	精査に時間がかかり、本日は中間報告となります。事業数がかなりありますので、詳細については、次回策定委員会でご説明したいと思います。今回配布しているのは、各課の事業の内容と規模、課題の資料です。漏れている事業もあり、消防本部について言いますと、消防団の支援事業、消防クラブなどの事業が漏れています。できれば、10月12日頃までに各課の取り組んでいる事業についての意見や、もっと詳しく聞きたいこと、この課が漏れているのではないかな等の意見がございましたら、ご連絡ください。また、各課が考えているコミュニティの課題とそれに対する方針に関しても、まだまとまっておりません。これに関しては、出来次第、各委員にお送りしたいと思います。
委員長	そのコミュニティの課題と方針が届き次第、その内容を含めて10月12日までに連絡するということでしょうか。
事務局	10月12日に関しては、現在出しているデータに関する意見に限定したいと思います。

●コミュニティを構成する組織について	
委員	あびこ子どもネットワークが入っていません。
事務局	策定委員の方のものは全て資料に入れ込んでいく予定です。また我孫子市社会福祉協議会も抜けているので入れておきます。他にも、ご自身の団体が漏れているという方はお知らせください。
委員	商店会や商工会などは入らないのですか。
事務局	これは主なものとして整理しているものです。策定委員の方の団体は全ていれて、再度皆様に配布いたします。
委員	子育てサークルがカテゴリーとして分けられていますが、他のPTAなどと比べると、カテゴリーの階層が違う気がします。これは市民団体に入るのではないのでしょうか。
事務局	これは参考資料として、各組織の組織体制や活動状況を把握することを目的としています。子育てサークルは、市内にも多くなってきておりまして、地域で子育てをしていくという活動内容を見ると、まさにコミュニティを担う団体として、今回は載せています。
委員	子育てサークルには何か資金的支援などを行っているのですか。
事務局	資金的な支援等はありません。現在、市のホームページで子育て支援というところに力を入れており、その中に子育てサークルがリンクされているので、それを見て載せています。資金的な支援等はありません。
委員	位置づけなどがイメージしやすいように、カテゴリー分けや図式化していただけるとありがたいです。
事務局	そのような資料を作成いたします。
委員長	これまでのところで質問はありますか。
委員	コミュニティを構成する組織の中にスポーツ関係のものが抜けてしまっています。市への登録がないのがネックとなっているのだと思いますが、コミュニティという部分で考えると、どんなに小さなものでもスポーツ関係はカバーしておくべきだと思います。
事務局	今回は、市民活動団体やNPO法人というところを出しているのですが、スポーツ関係も代表的なところを入れ

	て再度作成いたします。
●地域コミュニティ活性化に関する意見交換	
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	<p>市内の主要な市民団体約60で構成されているネットワーク組織です。各団体の中には、人が集まってしかたがないという団体も例外的にありますが、やはり、高齢化やなり手不足などの人の悩みが一番大きいです。組織や分野の課題としても、人の面で悩んでいる団体が非常に多いです。特にいわゆるスタッフではなく、今の組織を管理運営する役員クラスや新しい活動を推進する担い手が非常に不足しています。このような担い手の発掘、養成するなどの人対策が多くの団体の課題となっています。日常生活で感じる地域の課題として、自分の周辺でも市内のあちこちでも、生活に難儀する高齢者世帯が増えています。高齢者の生活支援や見守り体制など高齢者のためのコミュニティづくりが一番の肝ではないかと思っています。孤独死などの不幸な例もありますが、もともとこのような高齢者の方は普段の生活から一様に困りごとが多いという実態があります。市民団体の中には、見守り活動を積極的に行っている団体もあり、高齢者に対応する組織が今後も必要だと思います。ただ、高齢者を対象としている団体はあるのですが、高齢者世帯が増えて、カバーできないという問題も起きています。一つの団体でいくつかの地域をカバーすることは不可能なので、地区ごとの団体で連携をすることが必要だと思います。また、テーマ型団体と地縁型団体の連携が必要であると痛感しています。市に対する意見ですが、以前の勉強会で、市の公的サービスにはもう限界がきており、民間の団体でカバーをしてほしいとのことでした。このような事態にあるのであれば、市ではこれ以上カバーできないことを、民間や市民に呼びかける必要があると思います。市のやっている行政サービスを民営化する提案事業があります。これらをもっと具体的にしたり、説明会を開催し、積極的に呼びかけることが必要だと考えています。コミュニティの問題は、あらゆる世代で必要だと思いますが、それを全てカバーするというのは、非常に</p>

	<p>難しいだろうと以前から懸念しておりました。そこで、我孫子市として当面はどこに力を入れていくかはっきりさせ、メリハリのある基本方針をつくる必要があると思います。そしてそこに重点的な支援策を打ち出していく。このように実績ができると、その他の分野にも同じ方式で施策が展開できるのではないかと思います。そしてこのようなことを進める中での緊急の課題として、コミュニティの活性化を進める担い手の発掘だと思っています。</p> <p>担い手対策というのは、市民活動組織の中でもここ2、3年検討してきています。ボランティアというものが我孫子の中で一つの言葉になっていますが、そのような分野の講座を総合的に進める体制を作っていく必要があると思います。市外にも事例がありまして、柏市が柏市民大学を作って、その中で市活マイスター（地域活動のファシリテーター）の養成講座を始めています。このようなものを市全体で考えていく必要があると思います。</p>
<p>○●●委員の意見に関する意見交換</p>	
<p>委員</p>	<p>全体を通して感じることは、市民団体などに限らず、自治会もまち協も、スタート時点と比べて高齢化が進んでいると思います。それにともなって活動のスピードが遅くなったり、同じ方がずっとやっていることで、事業活動についても組織の中が動脈硬化を起こすのかなと感じています。</p>
<p>委員</p>	<p>社会福祉協議会は、いろいろな福祉の団体と関係があるのだと思いますが、まち協や自治会の人間からすると、何をしているのかわからないところがあります。どこかで情報提供はしているのですか。</p>
<p>委員</p>	<p>発信が足りないと言われればそれまでですが、広報紙なども出していますし、自分たちとしてはやっているつもりです。広報あびこにも社会福祉協議会について書いてあるので、それを見ていただければ理解していただけると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>名前は知っているが何をやっている団体かわからない人は多いと思います。また分野別や地域別でわかるような情報があればいいと思います。今の広報では、個人単位の内容は分かりますが、実態を感じられないというのが</p>

	課題ではないかと思います。
委員	福祉関係のイベントに参加しましたが、ほとんど年寄りかと思ったら7,8割が若者で驚きました。関心が高いんだなと思いました。
委員	こもれびまちづくり協議会では、地区社協の中にまち協から推薦して役員をやってもらっていることもあります。同じ地域の中で同じような活動をかぶってやっても、自治会の方は大変なだけなので、調整して行っています。その中で感じる問題は、まち協の活動範囲と地区社協の活動範囲が違うことです。この範囲の違いで活動がしづらいという事態が起きているので、ここを解決していく必要があると思います。コミュニティの活動をやっていく上で、ダブった活動をしないように連携が必要だと思っています。地区社協の方にもまち協の中に入れていただいて、その中でできるだけ調整していきたいと思っています。
委員	エリアに関しましては、コミュニティ整備計画の近隣センターの予定数が減ったということで、10個のエリアでまち協が設置され、近隣センターがあるというかたちになっています。一方、地区社協に関しては、市内を6地区のエリアに分けています。地区社協はお金がないので、6個のブロックを10個のブロックに分けることは出来ませんし、これからもまちづくり協議会と協力していきたいと思っています。事業がかぶっていること部分については、例えば、ふさの風と布佐南近隣センターと場所を変えて交替で活動をしているということもありますので、このような対策をしながら、これからもまちづくり協議会とは協力していきたいと思っています。よろしくお願いたします。
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	組織や分野の課題については連携、人材確保、活動参加者の減少、人材の確保と4つ挙げましたが、この中で説明したいのは、人材の確保についてはどちらの団体とも同じで、なかなか担い手が入れ替わらない。ただ、毎年ひとは新しい人を入れる努力をしており、なるべく男性の担い手を探しています。また、活動への参加が少な

いことも課題です。担い手だけでなく、主催事業もしていますが、そこへの就労現役世代の参加がとても少ないことを感じています。イベントの不足については、事業としては、23年度に年間61回、週に直せば1,2回というかなり多い回数です。ただ、まちづくり協議会も知名度がなく、社会福祉協議会との違いを理解していただけていない実態もあり、アピールするために少人数向けのイベントだけではなく、地区全体の方に来ていただける大きなイベントが必要だと感じています。活動している中での課題としては、災害時の「共助」のあり方の再検討の必要を東日本大震災のときに切実に感じました。例えば、計画停電などの情報がどんどん更新されてしまって、市からの情報が行き届かないという事態がありましたが、このような時に、まちづくり協議会として区域のために何ができるのかということを考えていく必要があったなと反省しているところです。もっと自治会や区域内の民生委員、地区社協との組織的な連携が課題であったと思います。また、自治会役員は一年交替のところが多く、交流会を開いてもつながりが深まらないという点も課題として感じています。自治会とは毎年2回顔合わせをしています。自治会の中には、10年来同じ方が役員をやっているところもありますが、一年交替のところは、顔合わせはできますが、深い距離やつながりを形成することは難しいと感じています。

生活の中で感じている課題としては、昔は地域に密着したお店などがあったのですが、最近はほとんどなくなってしまいました。そのため、買い物に困っている高齢者の方は多いと思いますし、高齢者の支援が課題になると思います。またここでもイベントの不足と書きましたが、自治会ごとに夏祭りなどのイベントを行っているところもありますが、出来ていない自治体が圧倒的です。33自治会あるのですが、回覧板をまわすのが精一杯というところが多く、祭りなどを開催しているのは一桁程度しかありません。このような自治会とどのように連携していくかが今後の課題だと思います。市への意見としては人材育成です。自分の地域を自分たちの力で盛り上げよ

うという心構えが市民に足りないと思います。なぜ自分たちが無料でこのような活動をしなくてはならないのか、それは市の仕事ではないかという意見が度々出ており、市民の意識の改革、意識を持っている方の育成が必要であり、市が果たす役割は大きいと思います。コミュニティづくり全般対する課題として、コミュニティという言葉には馴染みがないので、「地域」や「地域社会」など、カタカナではなく日本語で、イメージが沸きやすいようにした方が理解も早いのではと感じました。

○●●委員の意見に関する意見交換

委員  
15の自治会、約10数名の世帯から700名を超える世帯まで、約3700世帯が生活しています。全ての課題に共通しているのは、高齢化が進んでいること、あらゆる事業における担い手不足という中で、諸活動の広がりや展望がなかなか見えにくいところです。しかし、その中でも春から冬まで4つの大きなイベントを持ちながら活動するなど、努力を続けています。このような活動を継続していくことが大切だと思います。私が特に強調したいと思っているのは、先日の勉強会の中で、小学校区で活動してはどうかというお話がありましたが、先日まちづくり協議会の方に、新木小学校の方から、教育ミニ集を開きたいとの話がありました。そこでは、学校の教育方針、現在抱えている課題、学校の様子、こどもたちの様子を説明いただき、グループに分かれて話し合いました。それによって学校の取組みもわかりましたし、協力しなくてはならないところもたくさんあるのではないかと感じました。みなさまにも、各学校のそれぞれの活動の様子などを知らせてもらえたらいいなと思います。また、すでに取り組みが始まっているのですが、地域高齢者見守り事業、地域安心ネットワーク事業の活動を具体的に進めていこうということで、団地の二つの自治会が協力して、見守りネットワークを立ち上げました。つい先日、会合が開かれたのですが、協力者が183名、見守ってほしい人が合計53名も集まり、関心が高いのだなと感じました。また、つい先日行われた新木団地地区の老人会の総会で、集まった約50名～60名の方に

	アンケートをとりましたところ、約8割の方から大変助かるという意見をもらいました。そういう点で、少しでも前に進める活動が必要だと思います。できることからやっていく必要があるのではと思います。特に小学校区の中では、学校の保護者は地域の中に支えられたい、認めてほしいという希望がたくさんあると思いますので、学校を大事にしながら進めていく必要があるのではと思います。学校と地域、自治会が協力していくことが必要だと考えています。
委員	学校区で連携するのはいいと思うのですが、学校は校長先生が変わると取組みが変わってしまい、非常に難しいというのが現状です。特に先々の活動となると難しいと思いますが、それについて教育委員会に何か要望を言うことはできないのですか。
事務局	学校と地域は連携が必要だと思っています。組織上代表の方が変われば、考え方も変わってしまうのが現状だと思います。それについては、基本方針の中で学校と地域の連携について、策定委員の中で必要であるとなれば、書き込んでいければいいと思います。それに沿って施策展開をしていきたいと考えています。
委員	各学校に最大8名で約160名の学校評議委員がいます。私に関係しているところでも、学校経営やその他の問題について、校長が言えないところを評議委員が教育委員会にかけあいに行くということもあっていいだろうと思っていますし、実際に放射性物質の除染問題の時はかなり動きました。その他、各小学校区でミーティングに民生委員の方や教育委員会の方が出席している席で発言もさせていただいております。このようなシステムがあるということをご了解ください。
委員	私のところでは、我孫子中学校に、イベントの際のボランティアのお手伝いをしてもらっています。学校と連携し信頼関係を構築していくことで、活動もうまくいくのではないかと思います。
委員	「コミュニティを構成する組織について」の資料の中に学校教育課との関連で、PTAが載っていますが、PTAも活動の中で地域交流などについて考えてきており、

	新しいコミュニティ組織として有力だと思います。ぜひそのような資料も追加したらいいと思います。
事務局	先ほど、小学校の取り組みについてのお話も出ましたし、PTAの活動のお話も聞きましたので、それらについてデータを追加していきたいと思います。
委員	先ほど、校長が変われば活動が変わってしまうというお話がありましたが、どの学校の教育目標を見ても、必ず地域の連携や啓発という言葉は入っています。学校側からも地域からの協力は大変助かると感謝されています。春の祭りの時には、新木小学校と湖北中学校から吹奏楽を呼んで演奏してもらい、多くの人に感動していただきました。100人子どもがいればその裏には、300人の大人がいることを考えることが大事だと思います。学校はまち協などと関係ないと思えるのではなく、積極的にどのような活動をやっているか知らせていくことが大切だと思います。
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	障害のある人もない人も楽しく過ごせるまちを作ろうということで、地域みなさんに協力していただいて活動しています。その際、理事を地区にある各団体から選出し40数名集まるのですが、小さいサークルから来る方はいろいろ伝授されて地区社協の活動をよく理解して来てくださるのですが、大きいサークルからは何も知らずに来る方が多いです。そのような方の中には、初めて役員をやってみて、こんな活動があったのかと楽しんでくれている人もいます。このように、どんどん新しい方に入っていただき知っていただくことで、活動を広めることが出来るのかなと思っていますが、我々ももっと情報発信が必要だと感じています。課題として企画と宣伝の方法について挙げていますが、時代の流れに合わせて変えていかなくてはいけないと思います。地区社協の広報の方法は、市の広報と各地区に出される広報誌しかありません。それを展示するような場所に飾ったり、みなさんの活動に出て行って呼びかけたり、また地区の回覧板で回すこともありますが、内容がなかなか伝わらないなどの事態もあり、そのために人材の確保も四苦八苦して

	<p>いるところがあります。もっとみなさんに知ってもらう活動を行う必要があると思います。活動の課題については、地区でも孤独死やひとりで苦しんでいる高齢者が増えており、地区社協でも見守り活動を始めました。各家庭に安心カードを配り、高齢化社会に対する取組みをやっていかななくてはならないと発信しているのですが、この働き自体も理解してもらえないことが多く、さらなる情報発信が大切だと感じています。訪問についても、利用する方には満足いただいているのですが、利用者がなかなか増えず、また慣れてきた頃に施設に入る方も多いので苦勞している状況です。また、何をやるにしてもお金が発生するので、思うように会場を借りられないなどの課題が出ています。日常生活の課題については、福祉作業所が少ない問題があり、我孫子市にある福祉作業所についての情報発信を進めていくことが必要だと思います。市の政策への意見は、広報誌を貼っていい場所が限られており、情報発信の場所がないことに困っています。もっと広報できる場所を確保してほしいと思います。見守り活動の時の課題なのですが、この家が空いているのかどうかなどの情報の共有化をお願いしたいと思います。そして、最後に申し上げたいのは、自治会の会長との話し合いが活動を行っていくうえで必要だと感じています。例えば予算の中にある地区社会福祉協議会のお金をどう使っているのか分からずに活用されていないという事態が起きているのですが、それも加入自治会の中で、会議に出てこられるのがそのうち3分の1と限られており、残りの3分の2に関しては、全く把握できていないという状況が原因となっています。自治会とは連絡をとっていかないと、うまく円滑に活動が進んでいかないと強く感じております。そして、まち協は同じような活動を複数でやっているのでも、協力して活動を大きいものにしたたり、目的を変えたりと、同じようなものをだらだら行うのではなく、話し合いながら行う必要があると考えています。</p>
委員	<p>地区社協の方にお聞きしたいのですが、長寿大学では、人材確保の講義はやらないのですか。</p>

委員	<p>長寿大学から地区社協にお願いされるのは、一般的なボランティアや市民活動について、我孫子市の現状を話してほしいというものがあります。そのように4年間勉強した方が、実際にボランティアや市民活動に参加していただけるといいのですが、実態としては、講座に参加した方の1、2割しか活動を行う人がいません。一方で、今は名前が変わったかもしれませんが、社会教育ゼミナールですと、受講する時から目的意識を持っている方もいらっしゃるので、そのままボランティアを行う人もいます。長寿大学は個人的な趣味の延長線上という方が多いように感じます。</p>
委員	<p>長寿大学は、基本的に自分のための学校です。世のため人のためというものは、もともとの目的ではなかったのですが、教育委員会でもそのような趣旨を盛り込まなくてはいけなくなったので、我々も最近卒業までに一度市民活動の現状を長寿大学にご説明に行きます。しかし、もともと目的が違うものですから、効果が上がっていないのが現状です。先ほども出ました、ボランシカ大学については、もともと世のため人のために活動する学校にしたかどうかという議論になっているので、こちらについては、今後議論を進めていければと思います。</p>
委員	<p>地区社協の活動がうまくいっていないとお話が出ましたが、昔、自治会連合会というものがあったのですが、当該地区の自治会連合会は解散してしまいました。この原因は役員のみなり手がなかったことでした。その当時は、いわゆる地区社協と自治会連合会と一緒にやっていたので、わりと活動もうまくいっていたのですが、それが一つなくなってしまったことが、影響しているのではないかと思います。また、宣伝の方法がないということでしたが、各自治会の掲示板があるはずなので、それがあれば、自治会長のところ申請に行けば貼ってもらえると思います。</p>
委員	<p>公園緑地課に申請すると、広報紙を貼ることが出来ます。</p>
委員	<p>情報をありがとうございます。</p>
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	<p>我々のところでは、あらゆるテーマや課題についてプロ</p>

	<p>プロジェクトを立ち上げ、現在、向こう3ヵ年の間に課題の整理をするということで進めています。今回のアンケートについては、そのメンバーとあわせて6名の意見を聞き取り、自治会との関係性についてはやり取りを行ったうえで、内容を二つのテーマに分けてまとめましたので、ご説明させていただきます。</p> <p>私の自治会も担い手がないのが一番の問題です。我々のところは、現在22の区に分かれており、そこからひとりずつ一年交代で選出していますが、女性が圧倒的に多いです。また我々が感じている課題は、活動組織間の活動の重複があることです。自治会やまちづくり協議会などとの交流会を立ち上げており、交流会が地域の活動の下支えとして、見守り活動等の活動をしています。自治会は取組みの視点が一年と単期間であるため、長期的なものは先送りになってしまっています。そこで、防犯については、交流会を中心に横の連携を行うことで進めています。また4年半前から本格的な防災活動を始め、全会員を対象とした防災訓練も行っております。このように、長期的なテーマについては横断的な組織を作る必要があると感じていますが、担い手の不足によって、同じ人が複数の活動に顔を出すという状況になっており、一部の役員や委員は多忙である一方、その人たちに任せられているというところが問題となっています。リーダーシップを取るということは、プロジェクトを引っ張るなどと、かなり負荷がかかるため、一部の人間に偏ってしまっているのが現状です。また、役員本人ではなく奥さんが出てくるということが多く、このような点について、どのように把握するべきかについて検討しているところです。市への要望については、他の先進事例を実際に見学する機会を設けたり、情報提供をいただくなどのサポートをしていただきたいです。最後に、布佐地区でも学校と連携して防犯活動を行っており、布佐地区内4校の校長先生方と情報交換をしたり、見守り活動を行うなど、連携を深めています。</p>
委員	世帯数も多く大変そうですが、事務局員の方を雇っているのですか。

委員	2人の女性が交代で担ってくれています。地域安全情報センターとして指定を受けていることから、事務に必要な機械もちょうんと用意し、事務をお願いしています。
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	組織と分野の課題としては、構成員の人数の減少と地区間の壁を挙げました。ただ、地区間の壁については、分かれていたからこそ各地区で団体が出来上がっており、よい方向に向かっていると考えていますし、もちろん課題として構成員の人数の減少がありますが、新たな芽も育っていると考えています。市の施策に関する意見ですが、同じ分野で複数の課が働いており、参加している市民も重なっていることがあるので、整理を行う必要があると考えております。また、コミュニティについて考える中で、小学校区や地区社協との連携が課題となってきたなどもあり、まちづくり協議会による近隣センターの運営という計画が妥当だったのかということについて、改めて考える必要があると思います。コミュニティづくり全般に関する課題としては、価値観が変わってきている中で、どの部分でコミュニティが活用できるのかを考える必要があると思います。孤独死についても、家で最後まで過ごすことができたことに価値を置く考えも出てきているなど多様になってきており、世代間の壁があると思います。行政の縦割りと市民活動も縦割りになっているので、横の連携を行い、風通しをよくすることが必要だと思います。最後に、自助努力や共助努力について挙げましたが、もともとこのような活動は楽しく始めていたはずなのに、今は義務感になってしまっていると思います。もっと地域活動が楽しくできる、入っていけるような仕掛けづくりが必要だと思います。若い人たちもそれぞれのコミュニティは持っているはずなので、それらにどのように入っていくかについて考えないと、活動が今後先細りになってしまうと思います。
委員	若い人が集まってくるようなまちづくりへの検討などは行っているのでしょうか。
委員	今年から、布佐・天王台に青年部が立ち上がったので、情報交換も含めて、今後どのようにして我孫子の中で自

	分たちの存在感を示せるか研究していく勉強会などを行っています。
委員	孤独死について、自宅で最後まで過ごせてよかったのではないかという意見があるとのことでしたが、施設に簡単に入れない状況があるのと、病院も長期入院をすると早期退院をする時代になりかねないとのことで、地域社会をしっかりとしていかないと、自宅でハッピーに死ねないという事情があるということをご承知いただきたいと思えます。
委員	私が若いこともあって危機感がなく世代間のギャップがあるのかも知れませんが、価値観が多様化している中で、一律で行うのは難しいのではないかとということで、発言させていただきました。
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	組織は自治会が中心となって行っておりますので、安心と安全なまちづくりを目的としています。商工会や市、警察と役割を適切に分担して、犯罪が起こりにくい環境づくりをしていく必要があると思っております。しかし、実際にはうまく連携が取れていない状況です。その解決のために、6地区の防犯懇談会を開催いたしまして、防犯指導員連絡協議会（自治会）、地域防犯連絡所、少年指導員連絡協議会、学校警察連絡協議会の4つの団体の代表者から活動状況を報告してもらい、意見交換を行いました。また、我孫子市の市内一斉パトロールを年に5回行っています。私が活動している支部を例として課題を申し上げますと、防犯パトロールといいますが、自治会の方とやっておりますので、それだけではなく地域の生活環境のパトロールなども行っています。このように、防犯に限らず、他の活動を行っている団体と連携をとることが必要だと感じています。自治会の方は役員の任期が一年単位ですが、多くの方にこのような活動を経験してもらえるとという点では、活動を知ってもらえる良い機会だと思います。また、まだ活動を本格的に行っているわけではありませんが、学生さんにパトロールに参加してもらっている例もありまして、このように若いうちから参加していただいていると、大人になってからも

	<p>入りやすいのではないかと思いますので、今後積極的に進めていくのもよいのではないかと考えています。最後に、活動を行っていくうえで、横のつながりを持てるような連絡協議会などの組織があればいいと思います。現在は活動に係る組織が縦割りで、いろいろな組織を回らなくてはいけない状況です。役所についても同様で、各課を回らなくてはいけないとともに、その後どうなったのか報告をいただけないようなこともありまして、このような問題についても、横をつなぐ組織があれば解決できるのではないかと思います。</p>
委員	<p>組織の年齢構成は怎么样了のですか。学生にも参加をさせるとのお話でしたが、その対象は何歳くらいを考えているのですか。</p>
委員	<p>活動に参加した学生は、そのときはちょうど機会があつて参加していただいて、年に数回程度ですが、高校生の参加でした。年齢構成は、自治会が中心なので、60代、70代が普通だと思います。</p>
委員	<p>定年退職後の人を呼び込む方法として、シニア世帯歓迎の集いという活動がありますし、また同じ時期にインターンシップ制度を作り、市民団体にいったん入っていただいて、体験してもらおう試みを市が行っています。最初は応募者が多かったのですが、最近は先細りとなつてしまっているので、もう呼び込みだけでは難しいということで、例えば防犯指導員養成講座などの具体的な対策を総合的にとっていくことが必要だと思います。</p>
<p>○●●委員の意見に関する意見交換</p>	
委員	<p>液状化現象で二次被害があつたため、復興対策委員会を立ち上げて活動しています。今は、47名で構成されており、開設して5年というところで震災が起こつたため、一般会計の積立金がほぼなく、自分たちでそれぞれお金を出して、全てボランティアで活動を行っています。しかし人の出入りが激しい現状をみると、これからは全てをボランティアで行うのは厳しいと思いますし、活動経費の予算化を行う必要があると感じています。</p>

○●●委員の意見に関する意見交換

<p>委員</p>	<p>組織分野の課題として、立地背景の違いによって地域間格差があります。民生委員に就任するための年齢条件として65歳であったものが、現在は69歳まで条件を引き下げましたが、それでも欠員が埋まらないという状況になっています。また引き受けてもらえない理由として、東日本大震災の際に孤立死や孤独死について、民生委員についての情報がしっかり発信されないままに、マスコミが大きく取り上げてしまい、民生委員についての誤解を招いたことが挙げられます。活動における課題ですが、民生委員の欠員が埋まらず、一人ひとりの負担が大きい状況がありますし、また個人情報の保護を盾に居住者から調査拒否をする方が多いです。生活の中で感じる課題としては、私の住む地域はまさに振興都市の典型的なかたちとなっていますが、地域への愛着や連帯感は非常に乏しく近隣関係は希薄に思えます。市の施策への意見ですが、コミュニティ施策については、行政が行うことと市民が行うことをきちんと整理すべきだろうと思います。特に、補助金などを支給している場合は、その全ての団体にチェックを行う必要があると思います。コミュニティの課題ですが、委員会は何をどこまで決めるのかということをしっかり決めることが必要だと思っています。最後に、コミュニティの最小単位である家庭が崩壊している実情を民生委員の活動を通じて強く感じます。また我孫子駅を中心に半径150mの円をコンパスで書きますと、その中に葬式屋が三つもあります。このような状態では、商店街なんてできようがありません。市はもっとこのような事態に対して、歯止めをかけていただきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>自治会との連携がほとんど機能していないということに関して、自治会でも個人情報の問題があるのですが、自治会の方でも、取り上げられる人と取り上げられない人がいると思いますので、その範囲の中で活動をしていけばいいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今回は色々な団体の代表者が集まっているので、どこでオーバーラップできるのかを検討しながら計画を作って</p>

	いく必要があるのかなと思います。
委員	担い手を考える上で、地域活動における資金のサポートを行っていかないと、高齢者が付いていけないと思いますし、これから計画を作るうえで、このような点も踏まえて検討していく必要があると思います。
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	コミュニティづくりへの提案として、収入源をいかに考えるかということが重要だと考えています。手賀沼の活用や、白樺派について情報発信をするなどして、全国の方が観光を活発化していけばお金が落ちるのではないかと思います。また、祭りを他の地域と連携して大きなものにするなど、工夫をするといいと思います。
○●●委員の意見に関する意見交換 ※欠席のため、事務局が代弁	
事務局	大学と地域の関わりについての課題として、関心の低さが一番だろうとのことでした。その原因として、学生も教職員も忙しいことがあります。また一部では、地域活動と連携しているところもあるのですが、大学内での情報共有ができていない状況です。大学側が受身になっているので、積極的に推進することが必要であるとのことでした。
○●●委員の意見に関する意見交換 ※欠席のため、事務局が代弁	
事務局	我孫子市の行政機能や商業施設の全市的な活性化が必要であるとのことをご意見をいただきました。

●次回の進め方について	
事務局	学校の取組みについての情報をお配りいたします。自治会等のアンケート調査の分析結果をお出ししますが、作業部会の方と分析方法を検討していきたいと思っております。また残りの庁内調査の結果もお出しします。
●次回の日程について	
第5回策定委員会	10月27日(土)9時半～
第6回策定委員会	11月10日(土)9時半～
第7回策定委員会	12月8日(土)9時半～
第8回策定委員会	1月12日(土)9時半～